

加賀・能登「初期郵便印」概観

島崎 透 (P-122453・石川)

帯に短し襷に長し、持ち駒の中から展示に堪え得るものを選ぶとなると、何と悩ましいことでしょうか！試行錯誤の末、結局、全局統一規格である丸一印以前の不統一印・記番印・二重丸印・ボタ印を、16リーフに詰め込んでみました。

不統一印：ネーミング通り、大きさや形は千差万別。円形・角型だけでなく六角形に八角形…。**多様性重視**で集めようと決めたので、分銅型はどうしても入手したいアイテムでした。**竜切手**は、コレクター憧れの的、出会う度に財布と相談したものです。残念ながら、河北郡がまだカバーできていません。

記番印：○壹(一)弍(二)三四五六七八九の**数字揃え**を当面の目標にしました。まだ「九・(二)」の字が欠けています。加賀・能登には**使用局未確定な番号**があるので、地元コレクターとしてチャレンジもしてみました。

二重丸印：KG(国名+郡名)・KB2(国名+ひらがな便号)の両タイプは**全郡網羅**できました。珠洲郡には、KB2は1局しかありません。表示(字体・字数)違い・希少局など、変化づけに気遣いました。金沢特有のN1/K(明治付年号+円内国名)・KB1(国名+漢字便号)も加え、切手上の二重丸印は**全タイプコンプリート**です！

ボタ印：金沢で使用された抹消専用のボタ印(白抜十字・小ボタ・大ボタ)と、証示専用の二重丸印DN3B1(大径/数字のみ年号+漢字便号)・dN3B2(小径/数字のみ年号+ひらがな便号)・N3B3(数字のみ年号+カタカナ便号)の**組み合わせ**を一通り紹介しました。特に、**大ボタは額面揃え**を推進中です。大ボタ鏡字は、記号を裏返しに彫ってしまった誤刻です。左ボタという言葉は耳慣れないでしょうが、ボタ印版を逆さに装着すると、印影はボタ部を正位に見て二重丸の左側に来る訳で、誤植に類するものと考えて区別しているのです。

変わり種：収集を続けていると、運よく変わったものに出くわすことがあります。

○記番印以降の色変わり印は、人気者でしょう。当地にも青色と赤色が存在しました。

○証示専用印が満月で切手上に乗ってしまったのは、偶然でしょうか？記念押印とは思えませんが・・・。

○思わず笑ってしまう誤植…局員氏も気づいたものと見え、正しく押し直しています。ヒヤリハットな誤植…押印が1mmズレていたら、タイプを誤判断しかねないところですよ。